

成仁福祉だより

第36号
平成29年3月
成仁地区福祉
推進協議会

新任のご挨拶

日新地区民生児童委員協議会
主任 児童委員 河村和子

皆様こんにちは、この度主任児童委員を拝命いたしました河村和子です。至らぬ私ですが大任を果たせますよう、何かとご教導賜りますようお願いいたします。

私は生来子どもが大好きで、若いころから保育士と教諭資格を得て徳島市の「わかくさ幼稚園」に就職し、比較的大きな施設で園長先生はじめ職員、先輩、同僚、後輩の皆さんと一緒に可愛い子ども達の健やかな成長の手助けをしてこれたことは貴重な経験です。

幼稚園勤めをやめ結婚して大阪に5年住み夫の転勤で福知山に移り28年になります。二人の子どもを育て孫を抱く歳になりましたが、故郷へ帰るたびに各先生方にお目

にかかり子育ての苦楽を話し合ったり、またもう中年になっているかつての園児に会って当時の事を懐しく思いを巡らせては「仕事冥利につきるとはこの事かなあ」と思う今日この頃です。

現在は絵本や児童書の紹介あるいは読み聞かせを通じて得られたノウハウを活かし、人形劇や身近な素材でおはなしや手遊びなどでボランティア活動をしています。子ども達の食い入るように見る姿や笑顔をみられる事がわたしの生甲斐です。このような活動で笑顔の輪が少しずつ広がっていけば大変嬉しく思っています。

ところが最近の報道や伝聞によりますと、わが国では子ども6人の

内1人が貧困状態にあつて「物、つながらり、経験や教育の機会」が奪われていると言われていることに自身悲しく思っています。親が子育てに熱心であつても「仕事がない、お金がない、時間がない」ために十分なことが出来ず、子どもたちが次第に「自分のしたい事、やりたい事を我慢する」傾向が現れ、いつの間にか「頑張れば報われるのか、自分は価値のある人間だろうか」などと思ひ込んでしまうようです。自分の努力で何とかしようという自助努力の限界を超えて「何らかの支援」が必要となつていくようです。

支援には「自助」や「共助（まわりで助け合う）」それでも追いつかない場合には「公助（国や地方自治体が施策で支える）」があります。今こそ「子どもとの関わり合い」にもう一度注目し、貧困状態にある子どもたちに止まらず、広く子ども達の周囲に目配りをし、自分で出来るように励まし、必要であれば共助や公助の支援につなげていく、そんな活動をわたしたち大人が努力しなければならぬと思います。

子どもたちは社会の宝物であり、その子らが社会の入り口で悩み挫折する事のないように気遣つてい

きたいと思えます。微力で恥ずかしい限りですが決意の一端を申し上げます。どうぞよろしくお願ひ致します。

昨年十二月の一斉改選により、成仁地区の民生児童委員と主任児童委員が変更になりましたので、お知らせします。(以下敬称略)

◎民生児童委員

平野町・中坂町 担当

再任 中原 明子(西平野)

新任 林 由利子(西平野)

新任 山瀬 房枝(東平野)

退任 大野 森志(東平野)

大池坂町・長山町・桔梗が丘 担当

再任 的場 眞弓(大池坂)

再任 野本 紀子(大池坂)

新任 本田 美津子(長山)

◎主任児童委員

成仁・遷喬・佐賀 担当

新任 河村 和子(大池坂)

退任 村田 英秋(北平野)

各委員さんには、これからの活躍をお願い致します。退任の方には、今までの活躍に感謝し、合わせて今後とも福祉のよき理解者・協力者であることをお願い致します。(の)

誰もが安心して住み続けることができる地域であるために

前 民 生 児 童 委 員
大 野 森 志

昨年末の一斉改選で三期九年間務めさせて頂きました民生児童委員を退任いたしました。決して十分な働きではなかったかもしれませんが、私なりに精一杯その任務遂行に努めさせていただいたところで

す。

しかし、担当地区内での活動については、時間的な制約もあり十分ではなかったように思います。と申しますのも、一期目から、地区民児協の、二期目からは、福知山市民生児童委員連盟の会長に任命されたこともあって、地区外での活動に携わる時間が多かったことにより、それができたのは、成仁地区の民生児童委員の皆さんのご理解ご協力があったからこそであり、何よりも同じ地区担当の方がカバーしてくれたおかげであります。私は一貫して「誰もが安心して住み続けることができる地域社会づくり」を念頭に、民生児童委員活動に取り組んできたところであります。

できる地域であるために

大 野 森 志

すが、その成果はまだ目に見える形にまでは達していません。当然のことながら一朝一夕でなしえることではありませんが、地域住民が一体となつて構築していかねければなりません。そして、その推進役として、後任の委員の皆様方の活躍に期待を寄せるところです。

小生が民生児童委員を拜命したころの成仁地区の世帯数などを、最近の状況と比べてみますと、世帯数、人口共に増加しています。これは、桔梗が丘を始め、中坂町や長山町の造成地に次々と住宅が出来たことによるもので、これからも増加傾向が続くものと思われれます。

一方、高齢者数を見てみますと、大池坂町は8年前の1.64倍、平野町は2.17倍に達し、高齢化率はそれぞれ25.5%と24.5%となっております。

このように急速に高齢者が増加する中、国の制度改正により、福知山市では本年4月から、介護予防と

日常生活支援を総合的に行う新しい総合支援事業を始めようとしています。これまでの要支援1と2の訪問介護と通所介護が、介護保険の給付から外れて地域支援事業に移行されます。

全国で地域包括ケアシステム構築が進んでいます。福知山市でも、その姿が少しずつ明らかになってくるものと思いますが、これからは、地域で共に支え合つて生きていくことが求められてきます。

現在、成仁地区には高齢者を対象にしたサロンや認知症予防教室のほか、だれでも参加できるサロンや赤ちゃんサロンなどが、民生児童委員やボランティアの皆様によつて、毎週のように開かれています。今後、地域で取り組まなければならぬ

い福祉関連事項が更に増えてくるものと思われれます。その受け皿としては、成仁地区福祉推進協議会が考えられますが、今よりも活動の幅を広げ、内容の充実を図っていく必要があるかと考えます。

今、福知山市では自治基本条例が制定されようとしています。誰もが安心していつまでも住み続けることができる成仁地区であるためには、成仁地区福祉推進協議会を核として、地域住民が一体となつて福祉活動に取り組んでいくことが必要と考えます。

住民一人ひとりが出来ることを出来る範囲で、地域の活動に何らかの形で関わる、そんな成仁地域になることを願っています。

自治会活動をふりかえつて

長 山 町 自 治 会
会 長 角 場 英 吉

今年度、長山町自治会長を務めさせて頂いております角場と申します。日頃は、自治会活動にご理解とご協力を頂き誠に有難う御座います。自治会活動、仕事、プライベートに、人生で最も忙しい年になりま

したが任期も残りわずかとなり、肩の荷が降りホットしています。自治会長に就任し長山町内で起こった郵便ポストによる児童の怪我、道路灯の球切れ、溝蓋の脱落、

破損を指摘され、何回も修繕依頼に行きました。成仁地区では、セーフティネットの皆さんによる見守りで、通学時の安全だけでなく通学路の安全を確保されている事に、初めて気が付きました。

地域の見守り活動とは気をつけで見ること、特に、子供や高齢者に対し、安全な状態にあるかどうかについて注意を払うこと、とあります。成仁地区の皆さんが、気をつ

高齢化社会の中で、今思うこと

桔梗が丘自治会
会長 垣内 宏史

近年、高齢のドライバーによる交通事故が後を絶ちません。加害者は高齢者、被害者は小学生といったケースも珍しくなくなってきました。75歳以上の人が免許の更新をするときの認知症対策を強化した改正道路交通法も今月、施行されました。これほど事故が増えるところある程度の強化も仕方ないのでしょう。「あんな高齢になつて運転しているからだ。高齢者に運転させては周りが迷惑だ」という人たちもおられます。私自身もそのように思っています。

けて見ることや、声掛けによるコミュニケーションを図る事で、地域全体で見守りが活性化する事を期待しています。

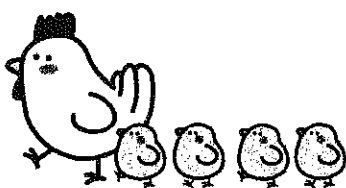
引越した先の自治会を経験すれば、成仁地区の良い所や、改善点も見えて来るかと思えます。数年後お話が出来れば嬉しく思えます。短い間でしたが、お世話になりました。

いました。しかし、落ち着いて考えてみるとどうでしょうか？ここ福知山では高齢者が歩いて行けるどころなど限られています。運転できないと身動きが取れなくなつてしまい、家に閉じこもりがちになり人とのコミュニケーションもなくなつてしまいます。コミュニケーションがなくなると、脳はおそらく退化していくでしょう。体も動かす機会が少なくなると、一層、動かなくなつてしまいます。そのうち生活上の支援や介護が必要になつてきます。

そうなるかと家族に負担がかかってしまいます。会社に行きながら支援や介護ができていた間は良いのですが、そのうち、会社を辞めざるを得なくなつてしまうこともあり得ます。実際、私のまわりでも介護を理由に退職してしまつた人が何人もおられます。そうなるかと家計は大きくマイナスになり、重い負担がのしかかります。経済的に苦しくなると心理的にも苦しくなります。こうなると、高齢者本人はもちろん、家族にとつても会社にとつても、ひいては日本経済全体にとつても大きなダメージです。

2035年(18年後)には、なんと3人に1人が65歳以上になるという推計もあるようです。若い人たちは他人事だと思つている人も多いことでしょう。しかし、もう20年もないのです。今、30歳の人も18年後は48歳。イメージしにくいかもしれませんが、子供がいれば大学生ぐらいでしょうか？住宅ローンの支払い、子供への仕送りに加えて介護費用を負担することはできるでしょうか？ 独身だつたとしても仕事をしながら親の介護をしなければなりません。たった一人でできるでしょうか？

たい私たちはどうしたら良いのでしょうか？残念ながら私は専門家ではありませんし、知識も全くありません。でも一つの方法は、高齢者にはできるだけ外に出てもらつて人とコミュニケーションをとることによつて脳や体を動かすことではないかと思うのです。成仁地域でされている「にっこり会」、「100円会」、「だれでもサロン」などは、実に良い機会だと思えます。また、高齢者自身が運転しなくても外に出やすい環境を作れると、もっと良いでしょう。これについては、市会議員の方々が奈良県生駒郡に視察に行かれたデマンド交通がその役目となるでしょう。生駒郡の成功事例を福知山市に取り入れて、もっと良いシステムを作つていただきたいと思います。市会議員の皆様には、大いに期待しております。



ご参加お待ちしております

成仁地区福祉推進協議会

会計 竹下香代子

「成仁福祉だより」では、成仁地区福祉推進協議会の主催する事業を折に触れて紹介していますが、目を通していただいているでしょうか。今回はその中から毎年十一月末に地区内の六十五歳以上の方を対象に開催している「高齢者のつどい」についてお伝えします。

働き盛りで新天地に居を構えて、仕事に、子育てにと頑張っておられるみなさんが、年を重ねて第二の人生をスタートなさるときに、近くの同年代の方との交流を深めるきっかけ作りをお手伝いしたいと始めた行事です。女性は子どもを通して（流行りの言い方をすればママ友？）それなりに知り合いも増えて、ご近所付き合いも積極的になさっているようですが、男性はというと、自分から交流の場に出ていくという事はなかなか難しいように見受けられました。そこで家から一歩出て、現職時代の同僚以外のお知り合いを増やしてもらう場を作ろうと計画したのがこの事業でした。

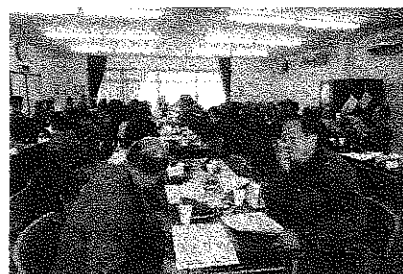
ただしいきなり「高齢者のつどい」と案内状が届いても「まだそんな歳じゃない」ということなのか、六十代の、それも男性の参加は当初多くはありませんでした。それでもどんな内容にすれば来ていただけるかと試行錯誤を繰り返すうちに、少しずつ地域の行事と認識していただけるようになり、お互いに声をかけて誘い合ってくくださる方もあって、参加者も増えてきました。

ただ少しでも楽に参加していただけるように椅子席にしたのですが、席の間を通ることもできないほどになり、成仁地区全体の交流という本来の目的を考えると会場を分けることは不本意でしたが、やむを得ず成仁集会所と平野町集会所で日を変えて実施するようになりました。

催す内容には、毎回頭を悩ませます。「二、三年だとオールデイズさんの演奏と軽妙なおしゃべり、わっぴさんの落語会、雀部地区の民生委員さんたちのハンドベルの演奏、芦田

照男さんのハーモニカとギターによる懐メロ大会などを行ってききました。ただみなさんには見るだけ、聞くだけより、一緒に参加して歌ったりできる内容の方が好評のようです。次回はどんなことがいいのか、アンテナを上げて情報を集めなければなりません。もし楽しそうなことがあれば教えてください。

高齡者なんて」と話題になるのですが、これという妙案が浮かばないのです。ちよつとのぞいてみようかと思えるような名前を、教えてくださいます。そこから若葉会、四ツ葉会、各サロンへの参加へと輪が拡がり、みんなが知り合いでお仲間、共生などと難しい言葉を使わなくても互いに手を差し出せる地域になることが福祉推進協議会の夢です。



・ 2月21日に舞鶴の南福祉協議会まで、福祉推進協議会の役員とボランティアさんの有志で地域福祉についての研修に行ってきました。大変有意義だったので、成仁地区の今後に生かしていきます。

事務局より：

・ 右の記事のように、高齢者のつどいの名前を募集します。またこの行事の会場準備やお茶出し等、当日お手伝いいただけるボランティアさんも募集します。お問い合わせは、

仁井内
野本

または民生児童委員までどうぞ。

・ 2ページ目の大野さんの記事にあるように、介護保険の制度が大きく変わります。絆やふれあいや思いやりの気持ちが大事になってきます。いわゆる「地域力」を強めて、赤ちゃんからお年寄りまで誰もが安心して住める街にしましょう。